

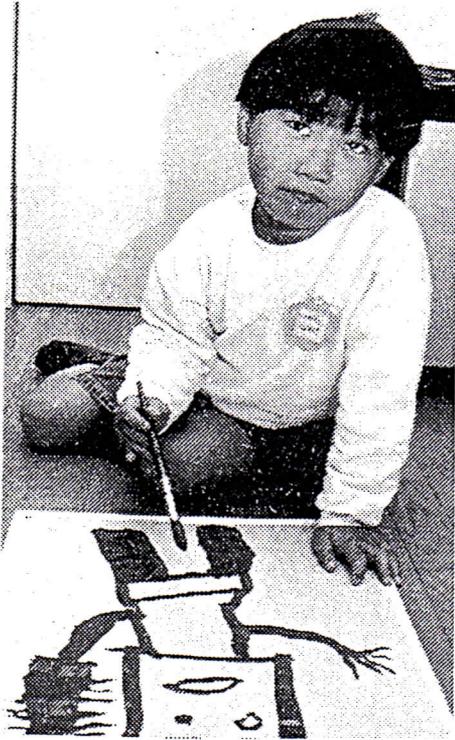
世界児童画展

播磨から2人入賞

第二十六回世界児童画展(日本テレビ文化事業団、美育文化協会主催、読売新聞社など後援)の入賞者が二十六日発表され、播磨からは、加古川市平岡町新在家、私立マーブル幼児ルーム園児井上直紀君(五)が読売新聞社賞に、同市東神吉町天下原、同おぞら保育園児加藤裕太君(五)が日本国際連合協会賞を、それぞれ受賞した。

井上君の作品は「ピアノインバリンやマラカス、トラカ大好き」。中央に大きなイアングルを打ち鳴らしてピアノカが描かれ、その周りにいる様子を画いた。りで友達が楽しそうに、夕 同幼児ルームの柿沼涼子

井上君
——「ピアノカ大好き」
友達と演奏楽しそう

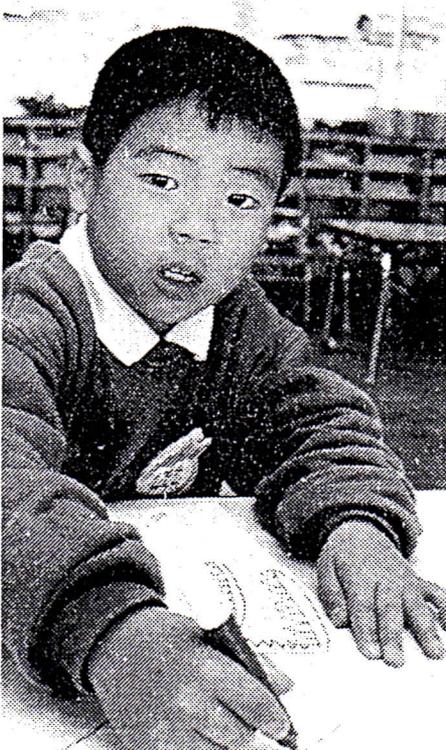


友達をたくさん描いた井上直紀君

園長は「井上君は自分の世界の中でいろいろと想像しながら絵を制作していく。この絵も一人でおしゃべりしながら描き上げた」と振り返る。井上君は「いつも絵本を見ながらかいていく。けん盤の黒と白を塗るのが難しかった」と言い、母の晶子さん(三十五)は「とても光栄。この子の励みになる」と喜んでいる。

——「ショベルカー」

加藤君
紙いっぱい
いきいき描く



絵を描くのが大好きな加藤裕太君

くの工事現場で、大きな音をたてて地面を削るショベルカーの迫力に驚き、園に戻ってから画用紙いっぱい描いた。

「ショベルカーが土をつかむところが、かっこよかった」と言い、作品の「ショベルカー」が土をつかむところが、かっこよかった

技術の店
三和印房
西三路町
☎88-1218

担任の原しずよさんは「カマキリの産卵やザリガニなど、生き物の絵を一人でよく描いている。ほわっと温かい感じの絵が好きですね」と言う。

母の育子さん(四十五)は「す

加藤君は昨年九月ごろ、保育園から散歩に行った近ダンブカーに土を積む様

「ショベルカー」は運転手の表情などが細かく観察され、長いアームを広げてきになってほしい」とうれ